

INDEX

◆ 所長からのメッセージ ◆

東日本大震災から学んだこと

◆ TOPICS ◆

平成24年3月は自殺対策強化月間です。

【石綿による肺がんなどの労災認定のための新たな要件を示します】

【職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキング・グループ報告について】

◆ 研修・セミナーのご案内(3月)◆

◆◇+.....+◇◆

◆ 所長からのメッセージ ◆

東日本大震災から学んだこと

大分産業保健推進センター 所長 三角 順一

昨年3月1日、メルマガ75号の所長メッセージにおいて、「3月危機に備えましょう」というテーマで、「3月には、メンタルヘルス対策上、職場において配慮すべき事項が、多々発生するので、労働者の方々について予めストレス要因を予測して対策を立てることが、重要である旨」述べさせて頂きました。

その後3月11日、東北地方に於いて未曾有の大震災が発生しましたが、あれからやがて1年を迎えようとしています。まだまだ、マグニチュード8クラスの余震の起こる可能性があります、復興が徐々に進んでいるのは、頼もしい限りです。被災地の当事者の方々には、じれったいものがあるに違いありません。一日も早い復興を祈るばかりです。これまで、日本全国から、また、世界中から、様々な援助や支援が寄せられていることは、心強いことだと思います。

米国、カリフォルニアのパロアルト市に在住している娘の話によると、日本人のお母さんたち5、6人が、話し合っ、子供たちが眠っている合間を見て、パンやお菓子を焼き、それを売ったお金10数万円を米国赤十字社を通じて、被災地に義援金を送ったと云う。また、私の大学在職中の中国人留学生で、現在、テキサス大学で働いているS博士のお嬢さんは、スタンフォード大学の学生であるが、彼女たちは、プリンストン大学、ハーバード大学及びエール大学等の学生さんに呼びかけて、数百万羽の折り鶴を折ってもらい、折り鶴を使った様々な芸術作品を創作し、作品の展示で得た収益金を米国赤十字社を通じて被災者に贈ったと、昨年夏、スタンフォードを訪れた際、彼女が私に語ってくれました。

外国にいる日本人や日本に滞在経験を持つ多くの友人たちからの知恵を駆使した援助を伝え聞くに付け、有難いと思うとともに、自分は何をなすべきか頭を悩ませているこの頃でもあります。

東北の被災地では、津波災害の数日後、流された自分の家の跡地で、寒さに震えていた小

皆様のご意見をお待ち致しております。

今月も最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。



Oita Occupational Health Promotion Center

独立行政法人 労働者健康福祉機構

大分産業保健推進センター

〒870-0046

大分市荷揚町3番1号 第百・みらい信金ビル7階

TEL:097-573-8070 FAX:097-573-8074

<http://www.oita-sanpo.jp/> / E-mail: info@oita-sanpo.jp

